SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

留学生の進路の幅を広げるために

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006613

留学生の進路の幅を広げるために

袴　田　麻　里

【要　旨】

本稿は、留学生の進路の幅を広げるために、日本語学習を通して日本での就職に対する意識を促し、日本語能力向上を支援する授業の実践報告である。多くの企業が日本人学生と同じ基準で留学生採用を行っていることを考えると、学内外で利用可能な就職支援を有効に活用して日本人と同じように就職活動に臨んだほうが留学生の進路の幅が広がる。1年間の授業から、留学生は適切な事例を用いての自己紹介、どの相手にどの状況でどの表現を用いるべきかの判断、自国に関する事柄であっても適切な用語や表現を用いての説明が難しいことが分かった。これらは、いずれも大学生活において話したり書いたりする機会が少ないためであり、授業では表現練習と添削機会を多くする必要がある。また、早期に留学生が企業の採用担当者と接し、多くの企業を具体的に知る機会も重要である。

【キーワード】留学生、就職に対する意識、日本語能力、具体的事例

1．はじめに

文部科学省は、平成20年7月「留学生30万人計画」において、日本社会全体で留学生の「入試・入学・入国の入り口から大学等や社会での受入れ、就職など卒業・修了後の進路に至るまで体系的に」取り組むという姿勢を打ち出した。留学生の卒業後の進路の選択肢はさまざまだが、もっとも希望が多いのは「日本で就職する（56.9%）」「日本で進学する（44.6%）」である（日本学生支援機構　2010）。産業界も、留学生の採用に意欲を持っており、特に技術系留学生のニーズは高い（日本経団連　2009）。

しかし、日本語能力不足で就職活動ができない、うまくいかないという声も多く聞かれる。2000年以降、就職活動中、就職後に必要な日本語能力・技能が「ビジネス日本語」として認識されるようになり、さまざまな教材が出版されている。しかし、その多くが就職後を想定しており、留学生が日本で就職活動をする際に必要な情報を掲載している教材は少ない。日本企業への就職を希望する留学生には、就職後に活用できるビジネス日本語と同時に、就職活動に直結した内容も必要である（堀尾　2010）。

本稿では、留学生の進路の幅を広げるために、日本語学習を通して日本での就職に対する意識を促し、日本語能力向上を支援する授業実践を報告するとともに、今後の課題について考えたい。

2．静岡県の留学生の就職に関する調査

静岡県の留学生の就職については、これまであまり基礎資料がなかったため、2008年に留学生と企業にアンケート調査を、2009年に静岡県内の大学を卒業し就職した元留学生に

インタビュー調査を行った（静岡県留学生等交流推進協議会　2008、2009）。その結果、静岡県内の企業は業務上の必要に迫られて、また社内活性化のため、留学生の採用に関心を持っているが、日本語能力や文化・習慣が異なること、早期退職に不安を感じていることが分かった。これは、全国規模での横須賀（2006）や横須賀・小熊（2006）、海外技術者研修協会（2007）の調査結果と合致する結果である。

一方、留学生は、就職と就職活動に関して認識不足であり、その結果どうしたらいいか分からない、準備不足であることが分かった。日本語能力に関しては、文書作成、メモ取り、敬語使用において日本語力の不足を感じたこと、顧客に不安を感じさせない対応ができないと昇進が難しいようであること、「協調性」など日本人社員と理解が違うように感じられる言葉があることなどが、元留学生のインタビューにおいて述べられた。この他に、母国へ戻りたいが時期は未定である、家族や親戚とは環境が違いすぎて就職について相談しにくい、企業が外国人を雇用する意義がよく分からないといった意見も出された。

この2つの調査から、日本語力を高めることと就職と就職活動に対する早期の意識化が、留学生の進路決定によい影響を与えるであろうことが推測される。これらは、日本人学生にとっても重要であるが、日本語能力に不安を抱える留学生は日本人学生よりも早期に取り組む必要があると考える。

3．静岡大学の留学生科目とキャリア形成科目

静岡大学では、全学教育科目で7つの留学生科目が開講されている（表1）。いずれも選択科目である。正規生として在籍する学部留学生は、ある程度の日本語能力をもって入学してくるが、日本人と同様に勉学生活を進めるのは容易ではない。そのため、1年次は日本の大学で学ぶ学生にふさわしいアカデミック・ジャパニーズを身につけることが目標である。一方、2年次は、実用日本語として、表現すべき内容を把握し、相手に明確に伝える日本語表現力の習得を目標としている。いずれの科目も具体的な学習内容は担当教員が受講学生の日本語能力を勘案して決定する。

表1：留学生科目

授業科目名	開　講	内　　容
日本語Ⅰ	1年前期	かなり高度な文法・漢字・語彙を習得する。大学の授業についていく日本語力を身につける（まとめる、意見を述べる）。
日本語Ⅱ	1年前期	必要な情報を聴き取ったり、大意をつかんだりするための聴解力を身に付ける。レポートを書くための基礎知識や文章表現力を養う（引用、文の基本、段落、文章表現）。
日本語Ⅲ	1年後期	ニュース、講義などいろいろな分野の情報を音声を通して収集し、理解した内容を文章にまとめる。
日本語Ⅳ	1年後期	かなり高度な文法・漢字・語彙を習得する。大学の授業についていく日本語力を身につける（まとめる、意見を述べる）。
日本語Ⅴ	2年前期	実用日本語表現すべき内容を把握し、相手に明確に伝える日本語表現力を養う。
日本語Ⅵ	2年後期	実用日本語表現すべき内容を把握し、相手に明確に伝える日本語表現力を養う。
日本事情	1年前期	現代の日本社会や日本人の考え方について、自分の経験に絡めて考え、ディスカッションする。

静岡大学では「キャリアデザイン」は全学教育科目の科目である。筆者が勤務する浜松キャンパスにおいては、情報学部では1年次、工学部では2年次に履修し、社会と職業、キャリア形成などについて考える。受講者は、受講によって卒業後について意識を持ち始め、3年生以降スムーズに就職活動を開始できると思われるが、留学生の場合、2で述べたように前提となる「日本での就職」「日本の就職活動」に対する認識不足から、日本人と同等の受講効果が期待できない場合があると推測される。

また「日本での就職」「日本の就職活動」に対する認識不足から、3年生以降学内外で開催される就職ガイダンスや合同企業説明会に参加しても、留学生は参加することで精一杯となり、有機的に情報収集や面談が行えない可能性もある。

2年生の時に「日本での就職」「日本の就職活動」がどのようなものかを知る機会があれば、まず早期に日本で就職するかしないかという大きな選択をすることができ、就職する場合どのような企業に入りたいか、そのためにどのような就職活動が必要か、そもそもなぜ就職活動を行うのかなど、ある程度日本での就職について考えられるようになる。その結果、実際に就職活動を始めてから、その複雑さや煩雑さに圧倒され闇雲に説明会に参加したり、目的も分からないまま自己PRを書いたりすることが少なくなると期待できる。

このように考え、2年生の留学生科目「日本語Ⅴ」「日本語Ⅵ」において「日本での就職」「日本の就職活動」をテーマとして日本語授業を行うことにした。

4.「日本語Ⅴ」「日本語Ⅵ」の概要

日本語Ⅴは2010年度前期に開講され、情報学部2年生5名（中国4、ミャンマー1）、工学部2年生4名（中国2、マレーシア2）、交換留学生1名（韓国1）が受講した。日本語Ⅵは2010年度後期に開講され、情報学部2年生4名（中国3、ミャンマー1）、工学部2年生4名（中国2、マレーシア2）が受講した。授業内容は、表2の通りである。

表2：「日本語Ⅴ」「日本語Ⅵ」授業内容

回	日本語Ⅴ（前期）
1	自分を紹介する①
2	自分を紹介する②
3	性格の言葉①
4	性格の言葉②
5	性格の言葉③
6	相手によって表現を変える①
7	相手によって表現を変える②
8	慣用句①
9	慣用句②
10	メールを送る①
11	メールを送る②
12	メールを送る③
13	留学生の日本での就職
14	敬語①
15	敬語②
評価	出席、授業参加、課題、期末レポート

回	日本語Ⅵ（後期）
1	期末レポートのフィードバック
2	母国と日本の新聞記事を説明する①
3	防災訓練（留学生行事）
4	母国と日本の新聞記事を説明する②
5	母国と日本の新聞記事を説明する③
6	母国と日本の新聞記事を説明する④
7	母国と日本の新聞記事を説明する⑤
8	母国と日本の新聞記事を説明する⑥
9	母国と日本の新聞記事を説明する⑦
10	母国と日本の新聞記事を説明する⑧
11	母国と日本の新聞記事を説明する⑨
12	社会人基礎力
13	求められる人材
14	外国人留学生（理工系）就職支援セミナー
15	エントリーシート
評価	出席、授業参加、課題、期末レポート

５．実践と課題

５．１　「自分を紹介する」「性格の言葉」「慣用句」「エントリーシート」

自己 PR や性格適性検査などで必要であることから、前期の１～５回は、性格の言葉を知り使えるようになることを目標とした。初回の自己紹介では、出身や所属といった属性や趣味を並べるだけの発話ばかりだった。「気持ちの切り替えが早い」「気配りができる」「きちんとしている」「大ざっぱ」など日常語レベルの表現でも、留学生が自己紹介で用いることは少ない。表現自体を知らなかったり、意味を誤解していたりすることも多い。授業では意味を解説した後、理解度を確認するためにその性格を表す自分や友達の事例を説明させた。事例自体を思いつけない、どの事例が適切か判断できないため、なかなか事例が書けない受講者が多かったが、個別に対応しながら書かせたところ、状況説明が正確にできない場合（例 1）と、意味理解にずれがある場合（例 2）があることが分かった。

（例 1）移り気

A さんは学校でいろいろな部活動の経験があるが、一つの部活動~~に長い時間に参加しなく~~（→を長く続けられず）、~~ずっと~~（→何度も）変わっている。

（例 2）根気がある（→最後までやり抜く、途中で投げ出さない）

マラソンをするとき「もう走れない」と思っても諦め~~なく~~（→ずに）、ずっと最後まで走る。

語彙や表現、文法の誤りによって状況説明が正確にできないことは、相手に自分の意図を正確に伝えられないことを意味する。このような問題に対しては、教員による訂正を受講者全員で確認し表現力向上を図った。また、意味理解がずれたまま対話が進めば、相手と話が噛み合わなくなる可能性があるので、授業でその説明が性格の言葉、表現が意味するところと合致しているかどうかを検討し、適切な事例を受講者全員で考えた。

慣用句は、身体名称が入った表現や動物が入った表現など、字面から意味が取りにくいものを紹介し、具体的な事例を説明させた。自分では使わないとしても、理解が求められることが多いと推測されるためである。性格の言葉と同様、状況説明が正確にできない、意味理解にずれがあるといった問題があることが分かった。

このような練習を経て、後期の終盤にエントリーシートで頻繁に課される自己 PR を書いた時には、文法や語彙の正確さには欠けるが、具体的な事例を中心に必要な事柄を書き進められるようになった（例 3）。この程度の説明文が書けるようになれば、3 年生で就職活動を始めた時には、内容の検討から始めることができる。このように教室活動を通して、ある程度正確に自分を説明する言葉や表現を理解し習得させることができたと考えられる。しかし、当初予想した以上に、留学生は適切な事例を挙げることが難しいことも分かった。これは大学生活において、これらの言葉や表現を耳にする機会はあるものの、実際に自分が人物描写をする機会が少ないためであろう。事例説明の例示を多くし、いろいろな描写を試みられるよう、工夫が必要であると感じた。

（例3）大学祭の模擬店

去年、静大祭で日本人の友達と相談して、水餃子の店を出すことを決めた。友達から知らない人まで「餃子を作ろう」「日本人と日本語を話そう」「お金を儲けよう」と呼びかけた。その結果、模擬店に関わる人は、約30人だった！私は誘い方がそんなにうまいかと、自分でびっくりした。

私は、スタッフを集めて、チラシ、買い物、餃子作りを全部行った。特に、どんなオリジナルな餃子を作るか、長い時間を使って議論した。私は形を変えて、見た目が味を変わる案を出した。他は、野菜ジュースや卵黄を皮に混ぜる案もあった。3時間議論を終わって、多い人が一種類の形の餃子しか作れないし、色があるほうが日本人が好奇心を持っていてつい買っちゃう、形を変えるが茹でたら変形する可能性があるなどの理由で説得した。最後は色で味を区別することにした。

実は、ジュースなどの色の皮は何回も広げて自然に縮んでしまった。結局、みんなはできることを把握し、よく役割分担をして、日本人の学生と餃子の作り方を教えながら餃子を作った。一部失敗だけど、新しい挑戦して、勉強になった。

5．2　「相手によって表現を変える」「メールを送る」「敬語」

日本語は、自分と相手との関係によって表現を変える必要がある。留学生には、日本の大学で学んでいる学生として流暢さだけでなく、場面、文脈、人間関係において適切な表現を用いたコミュニケーションが期待される。しかし、留学生の中には、その使い分けが分からない、できない学生も多い。これは、人間関係がほぼ大学の友人とバイト先というふうに固定しており、相手によって表現を変える機会が少ないためだと思われる。静岡県留学生等交流推進協議会（2009）のインタビューでは「大学はほとんど同期の間でしかしゃべっていなくて、「です、ます」はもう敬語だと思ったんですけど」と述べた元留学生がいた。また、留学生にある程度日本語力がある場合、理解できたこと、意思疎通できたことで留学生本人も日本人も十分だと考える傾向があり、相手による表現の使い分けへの注意度が低くなっていると推測される。

授業では、『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』を参考に親しい友人、工事業者、指導教員など相手と自分の関係を設定し、口頭でのコミュニケーションの場合、どのような表現が適切か、なぜその表現がよいのかを考えた。

次に、就職活動や大学院受験時にメールで問い合わせなどをする機会が増えることを考え、一般的なメールの形式を紹介し、国の友人から依頼を受けて、日本語学校へ問い合わせメールを送るという設定でメール作成の練習を行った。留学生は、このような場合には敬語を用いるべきであることは理解しているが、忘れていたりバイト敬語しか知らない留学生もいたりするため、敬語として使われる単語、表現を改めて提示し意味や用法を確認した。

メール作成練習の結果、敬語の使い方や表現自体の間違いや、相手との関係を考慮していない表現以外にも、件名が不適切であったり（「見学出願」「貴校に見学の請求メール」など）、情報が足りなかったり、失礼な印象を与える表現があったりするなどの問題点が散見され（例4、例5）、特に敬語以外の失礼な表現にはあまり注意を払っていないことが分かった。

（例4）件名：情報を得るため、見学したいです。

○○先生

××と申します。△△からの留学生です。

（私の友人は）先生の言語文化研究に~~対して~~、~~すごく~~（→大変）興味が持っています。~~その上~~（→それで）、6月21日に見学したい（のです）が、先生~~の~~許可が（→を）いただけませんか。

平日の午後（は）、~~いいです~~（→いかがでしょう）か。
~~先生から都合が不便だったら、お返事ください~~（→ご都合をお知らせください）。

よろしくお願いいたします。

××

（例5）件名：見学、お願いいたします。

○○日本語学校様

私は、××と申します。今は、静岡大学の学生です。
私の国の友達は、○○日本語学校で勉強したいという希望~~があることを先日に伝えました~~（→を持っています）。

しかし、~~貴校の~~ホームページの情報~~が~~（→だけでは）よく分からないので、貴校の様子などを教えてほしいと~~いう希望を持っているの私は~~、（→連絡がありました。）~~今度~~（→一度）貴校を見学~~して~~（→させて）いただけませんか。

~~本当にありがとうございます。~~（→よろしくお願いいたします）
それでは、~~メール~~（→返信）をおまちしております。

××

授業では、それぞれが作成したメールを全員で読み合い、内容と表現を検討した。特に失礼だと受け取られかねない表現には注意を払うよう促した。この問題は、例えば「おっしゃる」という単語を知っているかどうかといった知識の問題ではない。相手と自分との関係を理解し、どのような内容でコミュニケーションを図るのかをふまえて表現を選ばなければならない。相手によって表現を変える練習を通して、「通じた」だけでは良い人間関係を構築できないこと、敬語を使ったというだけでは不十分なこと、敬語の不適切な使用はむしろ失礼な場合さえあることに気付くことが重要である。

しかし、留学生にとってはどの相手にどの状況でどの表現を用いるべきかの判断は難しく、期末レポートにおいても授業と類似した不適切なメールを作成した受講者がいた。常に相手と場面に応じた表現を意識できるよう、練習問題を多くしたり、添削機会を多くしたりする必要があろう。

5．3　「母国と日本の新聞記事を説明する」

2で述べたように、企業の多くは、海外との取引、海外拠点の存在など海外業務への対応や社内の国際化のために留学生採用を考えているが、その一方で、日本語能力や日本文化・習慣への適応に不安を抱いている。また、インタビューした元留学生13名のうち10名は日本人社員とまったく変わらない業務に携わっていた。つまり、企業は留学生に日本文化・習慣への理解を前提として、日本人社員と同等の業務遂行能力に加え、日本以外の国に関するリソースとしての存在も期待していると思われる。

日本での就職において留学生と日本人学生を比較した場合、留学生が優位である事柄とそうでない事柄がある。授業で留学生のほうが優位だとして挙げられた項目は「母国語力」「母国の文化、社会を知っていること」「異文化適応力」「自立心」であった。また、母国の同級生と日本留学者との比較では、「日本語力」「日本の文化、社会を知っていること」「異文化適応力」「自立心」であった。

このように企業も留学生も、留学生は日本の事情と母国の事情を理解しているという認識で合致しているようである。就職活動時、また社会に出てからは時事問題が話題に上ることも多くなるので、母国と日本の時事的な事柄を新聞記事と日本の新聞記事から取り出し、各国事情を説明する練習を発表形式で行った。

発表は両国の記事の精読、質疑応答、ディスカッションも含めて一人90分で行った。発表者は、まず発表の2週間前に日本の新聞に目を通し、関心がある記事を複数選ぶ。次に、母国の新聞（インターネット）を閲覧し、選んだ記事と類似している、または関連がある記事を1つ探し、日本語に翻訳する（例6）。両国の記事が揃ったら、発表をまとめる資料（例7）を作成し、担当教員に添削を受けてから発表に臨んだ。

（例6）2010年12月ストックホルムの爆発について、マレーシアの新聞と日本の新聞を紹介

Dua letupan bom gegarkan Stockholm

2010 / 12 / 13

STOCKHOLM: Polis Sweden berkata siasatannya berhubung letupan dua bom di sini malam kelmarin mendapati ia adalah kes jenayah keganasan dan mengesyaki mangsa korban tunggal adalah pengebom bunuh diri.

Bagaimanapun, pengarah operasi polis Sweden Anders Thornberg berkata pihaknya masih belum mahu mengesahkan mangsa korban adalah pengebom bunuh diri atau mendedahkan identitinya kerana keluarga terdekat belum dimaklumkan.

Antara kemungkinan punca serangan itu ialah kemarahan terhadap pembabitan tentera Sweden di Afghanistan dan karikatur menghina Nabi Muhammad SAW dilukis oleh pelukis Sweden.

Seorang lelaki terbunuh dan dua lagi cedera dalam dua letupan bom terbabit di sebuah kawasan membeli belah yang sibuk di Stockholm.

Seorang lagi jurucakap polis, Kjell Lindgren berkata letupan berlaku, sejurus selepas satu emel dihantar ke sebuah agensi berita mengancam tindakan balas berikutan kehadiran tentera Sweden di Afghanistan. "Kami tidak menolak kemungkinan lelaki yang terbunuh itu meletupkan bom yang dibawanya.Bagaimanapun andaian ini belum disahkan pegawai penyiasat," katanya.

Beliau berkata polis juga masih menyiasat kemungkinan masih ada bom yang tidak meletup di lokasi.

Agensi berita Sweden TT berkata pihaknya menerima satu emel amaran kepada Sweden dan rakyatnya kira-kira 10 minit sebelum letupan yang berlaku pada jam 5 petang waktu tempatan.

TT berkata amaran sama menggunakan bahasa Sweden dan Arab, dihantar kepada Polis Keselamatan Sweden(SPO)dengan merujuk kepada karikatur Nabi Muhammad yang dilukis pelukis Sweden Lars Vilks.

Jurucakap polis, Petra Sjolander berkata letupan pertama berlaku di sebuah kereta yang mengandungi tabung gas.Lelaki yang mati itu ditemui di lokasi letupan kedua, kira-kira 300 meter dari situ.

ストックホルムの爆発

ストックホルム：スウェーデンの警察は、昨夜にぎやかなショッピングエリアで起こった爆弾の爆発に関する調査は、2つの爆弾は、暴力犯罪として認定される。その事件で、犯人とみられる男が死亡したほか、2人が負傷していた。
ただし、スウェーデンの警察の操作ディレクターアンダースソーンバーグは、警察は、近親者に通知されるまで、死亡者の身元や死傷者が自爆テロ自身かどうかを発表しないと言いました。
攻撃の原因は、アフガニスタンでスウェーデン軍の関与に対する反対およびスウェーデンのアーティストによって描か預言者ムハンマドの侮辱的な風刺漫画に対する怒りだと予想された。
別の警察のスポークスマンとして、Kjell Lindgren は爆発は、電子メールが報道機関に送信される直後に発生し、アフガニスタンでのスウェーデンの軍事的関与の報復を脅かしている。
“我々は、爆弾を持っていて殺された男が自分で爆発する可能性があるが、この仮定はまだ捜査官を確認していません。また、警察は、地域で不発している爆弾が残っている可能性を疑って、詳しく検討している。”と彼は言った。
スウェーデンの TT 通信社は、午後5時に発生した爆発の前に約10分間、スウェーデンの国民に対する警告メールを受けたと述べた。
また、同じ警告メールを今回はスウェーデン語とアラビア語で書かれてスウェーデンのセキュリティ警察（検察庁）に送信される。メールの内容は、Lars Vilks を描いた預言者ムハンマドの風刺画に対する反対である。
警察のスポークスマンのペトラスジョランダーは、最初の爆発は、ガス官を含む車で発生したと述べた。死んだ男は、第二の爆発の場所から約300メートルで発見された。

（例7：2010年12月ストックホルムの爆発について、マレーシアの新聞と日本の新聞を紹介）

言いたいこと：人間に対するメディアの影響

このニュースによって、犯人はイスラム教の人だと書かれた。
現在、世界の人々は、イスラム教に対する印象を聞くと、ほとんどの人は「テロ」だという印象を持つ。
なぜみんなこのような印象持っている？

マスメディアの影響
人々は、ニュースに言われたこと信じるがち。確かに、ほとんどの事は本当にニュースで言われた通りだが、実はそうではないこともある。
2003年のイラク戦争から、世界の人々は、特にヨーロッパやアメリカの人々は、イスラム教の人々はテロだと世界に見せようとしている。爆発事件が起こったら、いつもイスラム教の人が犯人だといわれている。しかし、それは、ニュースに言われたことだ。事実は本当にそうなのか。

結論：インターネットやニュースに言われたことが全て本当だと言われない。自分は、聞いたことはそのまま信じないで、よく調べて本当かどうかを確認した方がいい。

練習を始めてみると、どの受講者も新聞記事を選ぶことはできたが、翻訳とまとめにかなりの時間が必要だった。翻訳では、適切な用語や表現が分からなかったり、一言一句訳そうとして混乱したりしていた。「日本／母国の文化、社会を知っていること」と、適切な用語、表現を用いて説明ができることは違うということが理解されたと思う。在日年数が長くなるにつれて、日本の事情には詳しくても母国の事情に疎くなっており、そのテーマに関する知識が少ないため説明ができない受講者もいた。

まとめでは、共通点や強調したい点といった重要な点を絞り込めず、両記事の記述をそのまま書いてしまったり、逆にほとんどまとめずにいたりしていた。学部留学生は、日本語能力が高く在日年数も長いため、いわゆる「おしゃべり」はできるが、聞き手に着目さ

せたい点を示しながら効果的に話すには練習が必要であることを実感させることができた。

この教室活動は、日本と母国を説明する練習だったが、日本と母国以外の第三国についても知識を得られ、視野を広げるきっかけともなった。例えば、ミャンマー人学生がアウンサンスーチーさんの軟禁が解かれたという記事を紹介するまで、中国人学生はアウンサンスーチーさんを知らなかった。日本では何度も報道されていたが、まったく気付いていなかったのである。しかし、授業後、アウンサンスーチーさんのニュースに気付くようになり、ミャンマーの国内事情に関心を持つようになった。母国と日本の事情説明にとどまらず、思わぬ副産物が得られた。

5．4　「社会人基礎力」「求められる人材」

社会人基礎力は、経済産業省が2006年に提唱した「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力から構成されており、下位分類に、主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力という12の能力要素がある。各能力要素の意味するところは経済産業省によって定められている。

授業は、「企業が求める人材像と「社会人基礎力」との関係【2007年度版】」(経済産業省　2007)からさまざまな企業がどの能力を重視しているのかを読み取る作業から始めた。この作業によって、まず既知の企業（多くは大企業）以外に様々な企業があることを留学生に認識させることができた。その後、それぞれの希望業種や希望企業が求める能力を確認し、自分やクラスメートがどの能力要素を持っているかを検討した。その際に、前期の「性格の言葉」と同様、具体例を説明することによって表現させた（例8:文法や語彙、表現は訂正済み）ところ、300字程度でも書くのが難しいこと（①②部)、具体的に自分が何をしたのかを詳しく書けないこと(①②＿＿部)、不要な説明を入れてしまいがちなこと(②＿＿部)が分かった。また、クラスメートと検討を進める過程で、自分が認識している自分像と他人が認識している自分像の異同も判明した。特に異なっている場合はその原因を探り、どちらの自分像も成立し得ることを確認し、どのように表現したら自分が認識している自分像を伝えられるかを考えた。

このような手順を踏むことによって、企業のニーズとそのニーズがどう表現されているかを知り、自分を説明する表現を模索することができた。しかし、実際の就職活動では、ホームページやパンフレットなどから企業ニーズを情報読み取る能力が要求される。今回のように企業ニーズがまとめられたものだけでなく、企業ホームページなどからの読み取りも教室活動に取り入れる必要がある。

（例8）課題：自分が優れていると思う項目について具体例を300～500字で書きなさい。

①傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）

1年生の時「工学基礎実習」という授業を受けた。授業では、全学科の学生を8グループに分け、それぞれのグループが1年かけてロボットを作る。予想通り、ロボットを作る時、メンバーの意見が違った。皆が自分の意見だけを主張したら作

業を進めることができない。でも、私がよく意見を聞いたおかげで、グループメンバーの意見が同じになり、他のグループより作業が2倍速く進んだ。ロボットコンテストでは、私たちのグループの作った歌ったり踊ったりするロボットは評価が高く、2位になった。【229字】

②課題発見力（現状を分析し目的や課題を明らかにする力）

勉強は本を読むことだけでなく、いろいろなところへ行ってみることや、分からないことについての探究心なども必要だと思います。最も印象深いのは、「湖南」のある観光地に行った時のことです。ここのお菓子はとてもおいしいのですが、このお菓子を買う人はあまりいません。観光客に購入しない理由を聞き、自分でもよく考えた結果、包装の問題だと思いました。【167字】

5．5　「留学生の日本での就職」「外国人留学生就職支援セミナー」

前述した通り、留学生は日本での就職に対して認識不足であり、意識が低い。そこで、前期には先進的な取り組みで知られる東北大学経済学研究科・経済学部国際交流支援室の末松和子副室長の来学時に、留学生の日本での就職に関する講義を依頼した。具体的なデータや四季報などの紹介を交えた講義を受けた留学生は、留学生を取り巻く現状と展望を知り、就職活動を意識するようになった。

後期には、静岡大学浜松キャンパスで開催された静岡県国際経済振興会による外国人留学生（理工系）就職支援セミナーに参加させた。静岡県内の留学生採用希望企業15社が主として学部3年生、修士1年生の留学生を対象に面談を行ったが、学部2年生である受講留学生にとっては、県内企業を知るよい機会となった。セミナー参加後、留学生に感想を求めたところ、参加して分かったこととして、大学の成績はそれほど重視されないこと、大学院卒業者と学部卒業者でそれほど大きな違いがないこと、大学で専攻していない分野の業務でも採用の可能性があること、1つの企業の中にさまざまな業務があることなどが述べられた。ホームページの閲覧だけでは知り得ないことがあり、企業の採用担当者と直接話す重要性が理解されたようである。

このようなセミナーは、授業時間内に学生を連れて行けるキャンパス内での実施であったからこそ参加可能であった。しかしながら、キャンパス内で毎年セミナーが実施できるわけではない。実は2010年度の外国人学生就職支援セミナーの参加留学生が30名と少なかったため、2011年度は他大学の留学生が参加しやすいように学外での開催となった。キャンパス内でのセミナー実施を実現するためには、参加留学生数を増加させる必要があるが、現状では困難である。

参加留学生が少なかった理由は、セミナー参加者に該当する留学生（3年生、修士1年生）が限られているためである。企業が求める技術系留学生は、多くが静岡大学浜松キャンパスに集中して在籍しているが、その数は県内留学生約1500名のうち160名程度に過ぎない（2010年度）。セミナー当日には博士課程の留学生も3名参加し面談を行ったが、日本語力が著しく低いため、どの企業も採用に難色を示した。浜松キャンパス在籍留学生216名（2010年10月現在）のうち、日本語力が高く日本での就職が現実的な留学生はその3～4割ほどで、大半が学部生である現状では、残念ながら2年生の参加者も加えての30名がせいぜい

であろうと思われる。

しかしながら、2年生がこのようなセミナーに参加し採用担当者との面談を通して企業を知ることができるメリットは計り知れない。今後、学外で開催されるセミナーであっても2年生が参加できる方法を考えたいと思う。

５．６　授業アンケートから

後期の最終アンケートでは、1年を通しての評価は「日常生活でよく使う」という理由で「よい」が7名、「性格の部分がちょっと時間かかりすぎた」という理由で「まあまあ」が1名とおおむね良好であった。学生同士が互いに検討するためにグループワークを多用したことについては、「グループで分けて、討論する機会が多い、よかった」と評価する受講者がいる一方で、「時々クループで討論している時間が多すぎて、授業が終った時、今日の授業から何か勉強したかという疑問もあります」と感じた受講者もいた。また、受講によって伸びたと感じた技能を自己評価させたところ、「話す」「書く」がそれぞれ5名で最も多かった。これは「たくさん練習があります」「メールなどを書いていたので」「練習した作文の間違いを修正し、次回には正しい使い方ができる」「先生が私達が書いた文章を直した」という理由から、練習や添削の機会が多かったことを評価してのことと思われる。

６．今後の課題

以上の授業実施を通して、留学生は適切な事例を用いての自己紹介、どの相手にどの状況でどの表現を用いるべきかの判断、自国に関する事柄であっても適切な用語や表現を用いての説明が難しいことが分かった。これらは、いずれも大学生活において話したり書いたりする機会が少ないためであると思われる。留学生にある程度日本語力がある場合、理解できたこと、意思疎通できたことで留学生本人も日本人も十分だと考える傾向があるが、初対面の相手であっても自分が意図する内容を正確に伝えるには、用語や表現の使い分けや例示などが重要であることを留学生自身が理解し、自分の表現に対する気付きが促されなければならない。そのためには、教室活動において事例説明の例示や相手と場面に応じた表現練習と添削機会を多くする必要がある。その際、適性検査や性格診断などを体験させ、なぜ人物描写の言葉や表現が必要なのかを理解させた上で授業を進めることで、性格の言葉にかける時間が長過ぎるという印象を払拭できると思われる。

実際の就職活動では、ホームページなどからの情報を自分なりに理解する必要がある。今後は会社紹介のパンフレットやホームページから情報を得て、互いに説明し合う練習も取り入れたい。また、母国事情の説明練習は、時事問題に広く目を向けさせる効果が得られたが、これをきっかけとして新聞に目を通す習慣が身につけられれば、より多くの事柄を重層的に理解することができるようになる。今後は、継続的に新聞を読む機会を作りたい。

多くの企業が日本人学生と同じ枠で留学生の採用を行っていることから考えると、特に留学生向けの就職支援をするよりも、学内外で利用可能な就職支援を有効に活用して日本人と同じように就職活動に臨んだほうが留学生の進路の幅を広げられると思われる。留学生科目は、受講人数が少ないため、受講生のニーズに応えやすいというメリットがある。

日本での就職を希望している留学生には、日本語学習を通して就職に関する意識を早期に持たせ、「キャリアデザイン」や就職セミナー、四季報や各学科の就職室で必要な情報を得て、それらを有効に活用できるよう指導していきたい。

【参考文献・URL】

静岡県留学生等交流推進協議会（2008）「静岡県における留学生の就職意識と企業の留学生採用意識に関する調査結果」『話っ、輪っ、和っ！ 2008報告書』静岡県留学生等交流推進協議会、pp.72-152

静岡県留学生等交流推進協議会（2009）「留学生の日本企業への就職・日本企業での活躍を促すために」『話っ、輪っ、和っ！ 2009報告書』静岡県留学生等交流推進協議会、pp.59-148

財団法人海外技術者研修協会（2007）『平成18年度構造変化に対応した雇用システムに関する調査研究（日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究）報告書』財団法人海外技術者研修協会

独立行政法人労働政策研究・研修機構（2008）『外国人留学生の採用に関する調査』JILPT調査シリーズ№42、独立行政法人労働政策研究・研修機構

日本学生支援機構（2010）『平成21年度私費外国人留学生生活実態調査』
http://www.jasso.go.jp/scholarship/ryujchosa21.html（2011年11月29日閲覧）

日本経団連産業技術委員会（2009）『技術系留学生の質・量両面の向上に関する報告書』
https://www.keidanren.or.jp/japanese/journal/times/2009/0226/05.html（2011年11月29日閲覧）

堀尾佳以（2010）「留学生就職支援とビジネス日本語アジアン・ブリッジ・プログラム自立化に向けて取組み」『留学生交流・指導研究』Vol.12, pp.121-132, 国立大学留学生指導研究協議会

文部科学省（2008）『「留学生30万人計画」の骨子』
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm（2011年11月29日閲覧）

横須賀柳子（2007）「企業の求人と留学生の就職に関する意識比較」『留学生教育』第12号、留学生教育学会、pp.47-57

横須賀柳子・小熊裕美（2006）『外国人留学生の就職活動に関する調査研究―2003年度JAFSA調査・研究助成報告書』国士舘大学

【使用教材・URL】

経済産業省（2007）『企業が求める人材像と「社会人基礎力」との関係【2007年度版】』
http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/070312jinzaizou.pdf（2011年11月29日閲覧）

椙本総子・宮谷敦美（2004）『聞いて覚える話し方　日本語生中継・中～上級編』くろしお出版

A Report on Japanese Class for Job Hunting and Career after Graduation in Japan

HAKAMATA, Mari

This paper is a report on Japanese class that deepens international students' awareness about job hunting and career opportunities after graduation in Japan. International students will have many chances when they look for employment in the same way as Japanese students, because most Japanese companies recruit university graduates with the same criteria for both Japanese students and international students. Through one-year of classroom activities, it is difficult for international students to become able to introduce themselves appropriately, to judge proper words, expressions and grammar in each situation, and to explain news about their countries. International students need many exercises and feedback on their speech and composition to improve their Japanese skills. It is also important for international students to meet personnel staff from various companies and to become familiar with a wide range of companies at an early point in their college career.